

「マタイ 26章前半」

イントロ:

1. 文脈を確認する。
 - (1) 24章、25章で、オリーブ山での説教が終わる。
 - (2) ディスペンセーション
 - ①福音書の時代 律法の時代
 - ②神の国の福音 イエスが神の国の王として来られたという内容
 - ③恵みの時代への移行 教会時代は使徒2章から始まる。
 - ④恵みの時代の土台となるのが新しい契約
 - ⑤イエスの十字架の死によって新しい契約が結ばれる。
2. 十字架に向かって進むイエス
 - (1) サタンの策略
 - ①過越の祭り以外の時に、イエスを殺す。
 - ②十字架以外の方法で、イエスを殺す。
 - (2) 登場人物
 - ①サタンの側に付く人々
 - ②イエスの側に付く人々
 - ③状況が読めていない人々
3. きょうの箇所は、私たちにとってどういう意味があるのか。
 - (1) どんな妨害があっても、神の計画は必ず実現することを学ぶ。
 - (2) 聖書が教える救いの道がなんであるかを確認する。

神の計画の進展を、6幕に分けて学ぶ。

I. 第1幕 状況が読めていない人々 弟子たち 1～2節

1. ニサンの月の12日(火)
2. イエスの4回目の十字架預言
3. 受難の時が確定した。14日(木)の日没～15日(金)の日没の間。
4. 弟子たちの無知

II. 第2幕 サタンの側に付く人々 ユダヤ人の指導者たち 3～5節

1. 祭司長たちはサドカイ人、民の長老たちはパリサイ人。
2. 普段は敵対していたが、イエスを共通の敵として集まった。

3. 相談の内容

- (1) だまして捕らえる。民衆の目に付かない所で。イスカリオテのユダが手引き。
- (2) 過越の祭りが終わってから殺す。

4. 背後にサタンの暗躍がある。

Ⅲ. 第3幕 イエスの側に付く人 ひとりの女 6～13節

1. ベタニヤのシモンの家 元ツアラアト患者。イエスによって癒された。
2. ひとりの女の登場。この女はマルタの妹のマリヤ(ヨハネ 12:3)。
3. マルタと兄弟のラザロも、その家に招かれていた。
4. 高価な香油(ナルド)の入った石膏の壺。
 - (1) 王なら思いのままに使用した香油。
 - (2) 庶民の場合は、結婚式の夜のために用意するもの。
 - (3) ヨハネ 12章によれば、香油の価格は 300 デナリ(労働者の 300 日分の労賃)。
5. マリヤは、イエスの埋葬の準備としてその香油を注いだ。
6. マリヤは、イエスが復活することも知っていた。彼女は墓に行っていない。
7. マリヤは、イエスの足元に座り、その教えを聞いていた(ルカ 10:39)。
8. 弟子たちの反応
 - (1) 11人は、貧しい人たちを思って語ったか。過越の祭りは施しをする期間でもある。
 - (2) イスカリオテのユダは、利己的な理由。彼は盗人であった(ヨハネ 12:6)。
9. イエスのことば
 - (1) 今は十字架を前にした特別な時である。
 - (2) 彼女の行為は、埋葬の準備となっている。
 - (3) この行為は、福音が宣べ伝えられる所どこでも、語られ、記憶されるようになる。

Ⅳ. 第4幕 サタンの側に付く人 イスカリオテのユダ 14～16節

1. イスカリオテのユダは、祭司長たちのところに行く。
2. 彼の心に、サタンが入った(ルカ 22:3)。悪霊付きではなく、サタン付きになった。
3. 彼は、サタンの計画を実行する器となった。
 - (1) 内通者として、人目に付かないところでイエスを逮捕する道を開く。
 - (2) ローマ法に基づいてイエスを告発する役割を果たす。
 - (3) 裁判が始まってからは、証人となる。
4. ユダは銀貨 30 枚を手に入れた。
 - (1) シェケル貨 30 枚は、死んだ奴隷の代金(出 21:32)。ここには、皮肉がある。
 - (2) イエスの命は、死んだ奴隷の命と同じとみなされた。
 - (3) 金は神殿の金庫から出された。無意識の内に、最後の犠牲であるイエスを買取った。

V. 第5幕 イエスに付く人々 部屋を用意した人物 17～19 節

1. 秘密裏に、食事の場所を確保する必要性があった。
2. 派遣されたのは、ペテロとヨハネ(ルカ 22 章)。
3. 無名の二人の弟子(「水がめを運んでいる男」と「二階に大広間のある家の主人」)。
4. 二階の大広間とは、外階段が付いた、その家で最上の部屋。
5. 神への奉仕には、2種類ある。
 - (1) 直接的奉仕
 - (2) 間接的奉仕

VI. 第6幕 状況が読めていない人々 弟子たち 20～30 節

1. 過越の食事の順序
 - (1) 第1の杯。「感謝の杯」。
 - (2) 母か娘が、水の入った鉢とタオルを持って回り、人々は指を洗いタオルで拭く。
 - (3) 第2の杯。「裁きの杯」。
 - (4) パセリ(カルパスと言う)を塩水に浸して食べる。若さの象徴。
 - ①塩水の鉢は数人にひとつ用意された。
 - ②イエスはユダの裏切りを予告した。
 - (5) アフィコーメンの儀式
 - (6) ハロセットと苦菜を食べる。この時点で、ユダは去る。
 - (7) メインコース
 - (8) アフィコーメンを食べる。「これはわたしのからだです」
 - (9) 第3の杯。贖いの杯。
 - (10) 第4の杯。賛美の杯。
2. アフィコーメンの儀式をはさんで、メインコースがある。
 - (1) 3つの部分に分かれた布袋。
 - (2) 3枚の種なしパンを入れる。父、子、聖霊の三位一体の神を表す。
 - (3) 真中のパンを取り出し、2つに裂き、半分を亜麻布にくるんで隠す。
 - (4) メインコースの後で、それを持ち出し食べる。
 - (5) 「アフィコーメン」とはデザートという意味。
3. アフィコーメンとイエスの類似性
 - (1) このパンは、種なしパン。イエスには罪がなかった。
 - (2) このパンには、筋が入っていた。イエスの体についた鞭の跡。
 - (3) このパンには、小さな穴があいていた。イエスの体に残った釘と槍の跡。
 - (4) アフィコーメンは、十字架上で裂かれたイエスの御体の象徴。
 - (5) このパンを食すとは、イエスの十字架を信じ受け入れること。
 - (6) これを信じる以外に罪の赦しと永遠のいのちを受ける方法はない。

4. 第4の杯 賛美の杯で、過越の食事は終わる。

結論

1. サタンと人間からの妨害がある。
2. しかし、神の計画は成就する。
3. 今は恵みの時代
 - (1) イエス・キリストの福音を信じることによって救われる。
 - (2) クリスマン生活とは、神の愛に応答して生きること。